

おはようございます。

長崎大学人 河野茂です。本日から3日間、伊東昌子グローバル連携機構長（学生・国際担当理事）から、長崎大学で世界とつながる「Navigators」について紹介してもらいます。

「Navigators」とは、長崎大学における身近な国際化のロールモデルにふさわしい人材のこと。公募の結果、42名の学生、教職員が「Navigators」となりました。

長崎大学の「Navigators」42名が決定！

グローバル連携機構長（学生・国際担当理事）／伊東昌子

グローバル連携機構では、昨年長崎大学における身近な国際化のロールモデルにふさわしい「Navigators」を全学的に公募したところ、自薦他薦により42名の学生、教職員に参加していただくことになりました。

そして、この度HPでその一人一人を紹介する準備が整いましたので、3回にわたり、ご案内のメールをお送りいたします。

日本語サイト

<http://global.nagasaki-u.ac.jp/navigators-presentation/>

英語サイト

<http://global.nagasaki-u.ac.jp/en/navigators-presentation/>

長崎大学は現在「プラネタリーヘルスの実現」を掲げ、地球規模の課題の解決に全学の知を結集して当たろうとしています。「プラネタリーヘルスの実現」には、私たち自身が地球規模の視野を持つことが必要不可欠です。そこで、実際に世界を股にかけて活躍する人から、エリアは地域の中であっても、世界を意識して行動する人材まで、幅広く世界とのつながりを意識した活動を積極的に行っている人を「Navigators」として広く紹介しようと考えました。

皆さんは「グローバル人材」と聞いてどのような人を思い浮かべますか？英語が堪能な人？留学経験がある人？外国人の友達が沢山いる人？海外ボランティアに参加している人？そのように考える人は多いでしょう。そしてもしかしたら多くの人が「自分は違う」と考えているかもしれません。

しかし、新型コロナウイルス感染症がどのように世界に広まったか見てみてもわかるとおり、今や世界はより緊密になっています。感染拡大を防ぐために各国が国境を封鎖しても結局は上

手くいかず、今ではほとんどの国が再び外国人を受け入れるようになりました。国境を閉じていては様々な支障が出る。それくらい国境の概念は変質しており、あらゆるものがグローバル化しているのです。

そのような中、英語が話せないと、海外に出たことがないと、外国人の友達がいないと、「グローバル人材」と呼んではいけないのでしょうか？

私たちは違うと考えました。

今の時代、どこにいても、どんな言葉を話していても、外国人の友達が一人もいなくても、私たちは誰しものが世界とつながっているのです。それは個人の能力や努力というよりは、世界の構造的なものであり、それを実感するかしないかは私たち一人一人の意識の問題だからです。

42名の中には、世界をまたにかけて活躍する教員や学生もいれば、留学はしたことがないけれど浜辺のゴミ拾いを通じて国際問題に取り組む学生や、英語の発音オタクを自称する学生、世界中のお母さんと赤ちゃんが安心して暮らせる世界を考える職員など、色んな人たちが含まれています。日本に来て奮闘する留学生も含まれます。

明日から2日間「Navigators」のメンバーから何人かを紹介してまいります。

明日まで待てないという方は、この機会に是非「Navigators」のHPをご覧ください、自分はどうのように世界とつながっているか思いを巡らせてみてください。

日本語サイト

<http://global.nagasaki-u.ac.jp/navigators-presentation/>

英語サイト

<http://global.nagasaki-u.ac.jp/en/navigators-presentation/>